

EUは危機を乗り越えられるか

—拡大と深化からみたその現状と将来—

慶應義塾大学名誉教授 田中俊郎

- * 拡大——どこまでがヨーロッパか
- * 深化を続けるEU
- * EUは国民国家を超えられるか
- * グレシャムの法則を避ける工夫
- * 第一次危機とモラルハザード
- * 飛び火するソブリン危機
- * ヨーロッパの誇りとIMF介入
- * 支援めぐる域内の不協和音
- * ギリシャの混乱に振り回される
- * イタリア・モンティ新首相誕生



浅野 では開会いたします。（拍手）今日は、

経済倶楽部へは初めてですけれども、慶應義塾
大学名誉教授の田中俊郎先生においでいただき
ました。田中さんは、EU問題では屈指の専門
家です。お願いしたのは2ヵ月ほど前ですけれ
ども、このところEUのニュースでメディアは
たいへんな騒ぎで、これほどタイムニングが良
くなるとは思わなかつたですね。

レジュメには、EUとユーロの過程を詳しく
書いておられますが、この辺は大事なことで
すけれども少しはしょっていただいて、最後の
「おわりに」のところ、つまりEUのこれから
をたつぷりとお聞かせ願いたいと思います。そ
れから、レジュメに書かれていないエピソード
などにもぜひ時間を割いていただきたい。それ

ではよろしくお願いいたします。（拍手）

田中 皆様、こんにちは。ご紹介いただきま
した慶應義塾大学の田中でございます。なぜE
Uが重要かということから入らせていただきた
いと思うのは、EUというのは経済共同体で、
経済が中心だというイメージが日本人にはあり
ます。

ですが、そもそもというと、1950年5月
9日に、フランス外相のロベール・シューマン
が発表したシューマンプラン、これはドイツと
フランスの石炭と鉄鋼の資源を共通の機関の下
にプールするという構想ですが、そこから（E
Uの母体である）欧州石炭鉄鋼共同体（ECS
C）が生まれました。その最大の目的は、経済
的手段を使いながら、ヨーロッパに平和を、